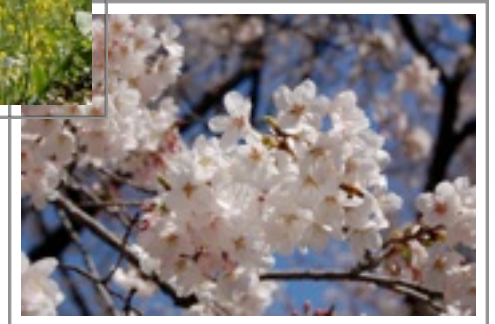




J-BILAT 月刊ニュースレター
第13号 | 2011年4月

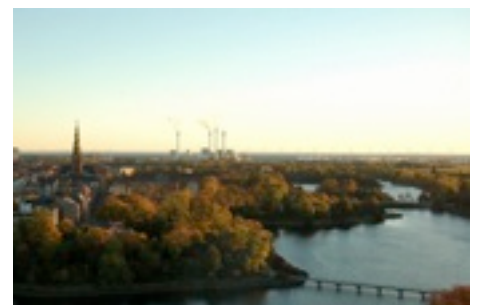
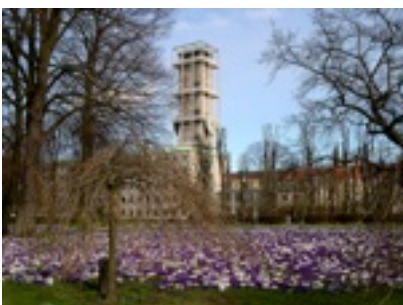
J-BILAT Newsletter
No.13 | April 2011



J-BILAT 月刊ニュースレター 第13号 (2011年4月)

目次 (Contents)

- 1 日・EU 科学・技術協力協定の批准
 - 1.1 欧州委員会からのメッセージ
- 2 日欧研究開発協力に関する第二回認知度・意見調査 (予告)
- 3 ニュース (News)
 - 3.1 IPR helpdesk の新しいサイト
 - 3.2 You name it!: 次期研究枠組みの名前を募集中
 - 3.3 神戸大学ブリュッセルオフィスオープニングシンポジウム
 - 3.4 EUJ 九州発足と開所式
今後の関連する催し
 - 3.5 J-BILAT 第2回成功事例ワークショップ (エネルギーと物質科学及び生産技術)
 - 3.6 J-BILAT 第1回成功事例ワークショップ (情報通信)
 - 3.7 その他、関連する今後の催しのリスト
- 4 日本の機関が関わっている欧州プロジェクト紹介
その13: MACANプロジェクト
- 5 公募情報
 - 5.1 昨年の公募の審査状況
 - 5.2 日本からの応募が可能なFP7公募
- 6 プロジェクトデータベースへの登録のお願い
- 7 欧州連合加盟国紹介 その8 デンマーク



1. 日・EU 科学・技術協力協定の批准

2009年11月に署名された日・EU 科学・技術協力協定は、口上書の交換により2011年3月29日に正式に発効しました。法的な整備がされたことにより、日欧間の研究開発協力体制の一層の強化が期待されます。外務省による報道発表は以下を御覧ください。

http://www.mofa.go.jp/mofaj/press/release/23/3/0330_01.html

署名された文書に関しては、例えば以下のリンクからダウンロードが可能です。お互いのシステムの相互利用等が謳われており、当然のことながら欧州側の仕組として FP7 に言及がされています。イノベーションを取り入れる2014年からの新たな枠組みや、今後の日本側の対応する動きも興味深いところです。

<http://www.concertjapan.eu/node/99>

1.1 欧州委員会からのメッセージ

J-BILAT事業を管轄する欧州委員会の研究・イノベーション総局の国際協力担当局長より、日・EU 科学・技術協力協定の批准にちなみ、メッセージを頂きました。以下に原文（英語）を日本語への仮訳とともに掲載いたします。

Towards a stronger EU-Japan Partnership in research

It is a pleasure to announce that after more than six years of negotiations, the EU-Japan S&T Cooperation Agreement finally entered into force on March 29th 2011. There are high expectations on the role that the agreement will play in underpinning the development of EU-Japan cooperation in science, technology and, of course, innovation. By providing the legal framework for a regular S&T dialogue we have high hopes that the agreement will pave the way for a new era of our cooperation activities with Japan.

日・EU研究パートナーシップの強化に向けて

六年以上にも渡る交渉の末、日・EU 科学・技術協力協定が2011年3月29日、遂に発効したことをお知らせ出来ることは喜びの限りです。日・EU の科学、技術、そして勿論イノベーションにおける協力関係の発展を支える協定の役割には大きな期待が寄せられています。協力協定が定期的な科学・技術対話のための法的枠組みとなり、日本との協力の新たな時代への道を開いてくれるものと、大きな希望を持っています。

The EU and Japan are confronted with similar challenges concerning economic growth, industrial competitiveness, employment, regional and social cohesion, sustainable development, and perhaps most importantly, socio-economic adjustments to deal with ageing societies and a predicted reduction in the number of researchers. The EU and Japan together account for about 40% of the world's GDP and are major trade and investment partners. For both the EU and Japan research and innovation is the key to the future: both countries have relatively few raw materials and, thus, their prosperity depends very much on creating and exploiting knowledge. It is, therefore, in our common interest to work closely together cooperatively in order to address the challenges that face us.

The Joint Steering Committee established under the agreement is expected to meet once a year with the aim of developing a stronger partnership by enhancing the scale and the scope of cooperation. It will identify research and innovation objectives of common interest and mutual benefit and, in order to address them, agree on joint activities to promote cooperation between Japanese and European research organisations and companies. It will support such cooperation through funds from the EU FP7 and Japanese programmes in the relevant areas. The J-BILAT project will contribute to foster this cooperation. Through its activities it will, in particular, enhance awareness among the Japanese research community of the FP7 opportunities available for cooperation with European partners.

日本と欧州は同様の課題を抱えています。経済成長、産業の競争力、雇用、地域や社会の結束、持続的開発、そしておそらく最も重要なのは、高齢化社会それにより予測される研究者数の減少に社会経済をどう適合させていくかといったことです。欧州連合と日本は、合わせると世界の GDP の約4割を占めており、お互いに貿易と投資の主要なパートナーであります。欧州連合と日本の双方にとって、研究とイノベーションは将来への鍵を握ります。どちらも比較的資源に乏しく繁栄のためには知の創造と活用が必要だからです。それ故に、私達が協力し、直面する課題に対処するために密接に連携することは、共通の関心なのです。

協定の下に設置された合同推進委員会は、年に一度の会合を持つ事になっており、協力の規模と範囲を拡大し、より強固なパートナーシップを形作る事を目指します。そこでは、研究及びイノベーションの共通かつ相互に利益となる目標の特定がなされ、日欧の研究機関や企業間の協力促進のための共同の取組みについて、合意が形成されます。そのような共同の取組みは、欧州連合の FP7、また日本の対応する領域のプログラムからの助成金により支援されるでしょう。J-BILAT プロジェクトはこのような協力の促進に貢献します。特に日本の研究関連団体に、FP7 を通じて可能な欧州パートナーとの協力の機会についてより良く知っていただけるよう、活動を致します。

Japan has 15 bilateral S&T agreements with EU Member States. The European Commission will therefore also work more closely with its Member States to promote coherence and synergies between EU and Member States' cooperation with Japan.

Isi Saragossi



日本は（欧州連合に加え）EUの15の加盟国と二国間の科学・技術協力協定を締結しています。欧州委員会は加盟各国とより緊密に連携し、EUと日本、加盟国と日本との協力が一貫して行われ、相乗効果が得られるよう、働きかけて参ります。

イシ・サラゴッシ（欧州委員会 研究・イノベーション総局 国際協力局長）

参考：

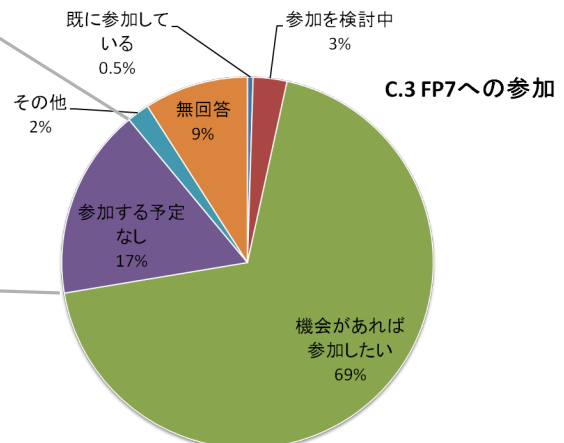
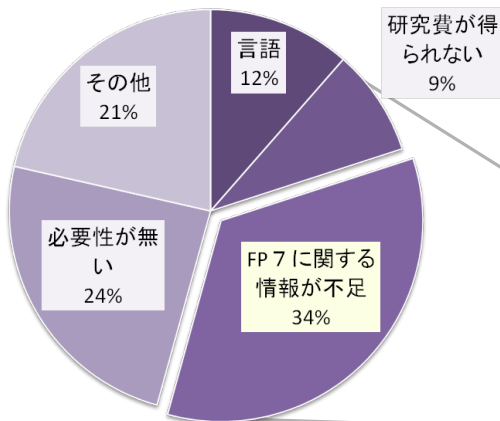
欧州委員会 研究・イノベーション総局

<http://ec.europa.eu/research/index.cfm>

2. 日欧研究開発協力に関する第二回認知度・意見調査（予告）

J-BILAT では、2010年の3月に第一回の認知度・意見調査を行い、プロジェクトの開始時点での欧州との連携に関する興味や経験、意義や障害などについてをまとめておりますが、この度、第二回の間調査を行い、その後の変化、特にプロジェクトの活動がどう寄与しているか、等についての理解を得ようと考えております。調査は前回と同じくオンラインで、6月1日に開始の予定です。詳しい情報は、次回のニュースレターでご案内いたしますが、皆様のご参加をお願い申し上げます。

C.4 FP7に参加しない理由



第一回調査の結果より

3. ニュース (News)

3.1 IPR helpdesk の新しいサイト

欧州の枠組み、研究開発 (FP7) 及びイノベーション・競争力強化 (CIP) に参加する方々が、知的財産に関する疑問を解決する場として IPR ヘルプデスクが開設されていますが、そのウェブサイトがリニューアルされています。ニュースレター等、欧州との共同研究開発にとって、有益な情報とサポートが得られます。

<http://www.iprhelpdesk.eu/>

主に日本からの参加の出来ない CIP 関連国からの問い合わせを対象としているために日本からのユーザー登録ができませんでしたが、現在可能になっています。

3.2 You name it!: 次期研究枠組みの名前を募集中

先月号でもお知らせしましたが、欧州委員会から次期研究枠組みに関するグリーンペーパーが出され、次期計画策定のためのパブリックコメントが求められています。これと同時に、新しい枠組みの名前も募集中ですので、アイデアをお持ちの方は是非ご参加ください。ブリュッセル時間の5月10日深夜(11日午前0時)まで受け付けられています。

http://ec.europa.eu/research/csfr/index_en.cfm?pg=younameit

グリーンペーパーのダウンロード、コメントの提出方法の詳細については以下を御覧ください(5月20日まで受付中)。

http://ec.europa.eu/research/csfr/index_en.cfm

目玉は、これまで欧州委員会 研究総局 (DG RTD) の管轄下であった FP7 と、企業産業総局 (DG ENTR) が管轄していたより市場化に近い部分を支援する枠組み Competitiveness and Innovation Framework Programme (CIP) のうちのイノベーション部分を統一する方向で進んでいることです。J-BILAT でも、今後の動きに注目していきたいと思います。

なお、本件に関しては、以下の JST のデイリーウォッチャーにも日本語での記述があります。

<http://crds.jst.go.jp/watcher/data/20110308-005.html>

3.3 神戸大学ブリュッセルオフィスオープニングシンポジウム

神戸大学国際部国際企画課より、ブリュッセルオフィスオープニングシンポジウムに関して以下のご寄稿を頂きましたので掲載いたします。



神戸大学は、2010年9月にベルギー・ブリュッセルに、日本の大学として初めてとなる「神戸大学ブリュッセルオフィス」を開設しました。その記念として2011年3月3日から7日まで、「日欧教育研究連携の新時代」をテーマにしたシンポジウムを開催しました。

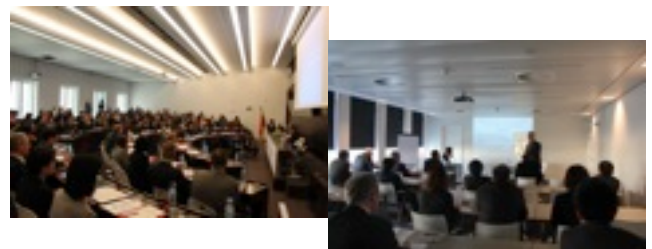
同シンポジウムは、文部科学省、外務省、経済産業省、国立大学協会等の後援、また日欧の大学からの協力を得て開催したもので、「日EU高等教育政策セミナー」、「日欧大学ラウンドテーブル」及び6つの研究セッション及びシンポジウムから構成されています。

3月4日のメインシンポジウムでは、日欧の高等教育における国際連携をテーマに、ヘルマン・ヴァンロンパイ欧州理事会議長 (EU大統領)、清水潔文部科学事務次官、福田秀樹学長、プラッツ＝モネ欧州委員会教育文化総局長、ボシュロウ欧州委員会研究総局国際協力政策課長及びヴァンカウエンベルグ・ヘント大学長の講演が行われ、150名の日欧の大学関係者等が出席しました。



メインシンポジウムの冒頭には、福田学長からヴァンロンパイ欧州理事会議長のこれまでの功

績により神戸大学名誉博士称号の授与式を行いました。また、「日欧大学ラウンドテーブル」では、中村千春理事がコーディネーターとして、武田廣理事、大阪大学の辻毅一郎副学長、パリ第2大学のルカイヨン副学長、欧州大学協会のゲーベル高等教育政策課長がパネリストとなり、日欧の教育研究連携の在り方について議論しました。さらに、研究セッションでは生命科学(神戸大学が発見したプロテインキナーゼ分子、バチルス菌のバイオテクノロジー)、経済学(低地地方が欧州統合において果たした役割)に関する日欧の研究者による研究セッションを行いました。



また、3月3日、5日、7日は欧州経済社会評議会、ブリュッセル自由大学、ルーヴァン・カトリック大学において、経済学(企業の社会的責任)、文化学(欧州統合に文化が果たしている機能)、工学(医療福祉分野におけるIRTの利用)に関するシンポジウムを開催しました。

これらの研究セッション及びシンポジウムでは本学の研究者15名、欧州の研究者等39名が発表し、今後の共同研究に向けた議論も行なわれました。

なお、同期間中、在ベルギー日本大使館広報文化センターにおいて、「日欧教育研究連携の新時代ポスター展」が開催され、神戸大学、京都大学、大阪大学、関西学院大学及び関西大学の研究成果のポスターを展示しました。

(写真提供：神戸大学国際企画課)

3.4 EUIJ 九州発足と開所式

EUIJ九州より、組織と開所式に関して以下のご寄稿を頂きましたので掲載いたします。



2011年4月1日、欧州連合（EU）の日本における学術拠点として、EU Institute in Japan, Kyushu(以下EUIJ九州)が設立されました。

<http://www.euij-kyushu.com/>

EUIJ九州は、福岡に所在する九州大学、西南学院大学、福岡女子大学の3大学によるコンソーシアムで活動し、九州エリアにおいて現存する専門的知識を結集して、EU研究を促進し、EU情報を発信する持続的学術拠点となることを目指します。この目的のため、研究者・学生、企業、一般市民等を対象として、政治・経済、科学技術及び文化面でのEU理解と知識を深めるための諸活動を行います。主要活動は以下の通りです。

- * **教育**：EU研究ディプロマプログラム (EUIJ-DPs)を実施し、コンソーシアム3大学の学生にEUについての体系的学習の機会を提供します。また、コンソーシアム参加校以外の大学にも開放する「EU研究サマーカーコース」も実施します。
- * **研究**：EUおよびその加盟国に関連する研究会、学術シンポジウム、講演会の実施または後援を行います。
- * **奨学金・EU研究助成**：コンソーシアム参加大学学生のEU加盟国への留学（短期語学研修含む）支援、若手研究者のEU研究スタートアップ助成、及びEU研究者への研究助成等の支援を行います。

- * **アウトリーチ**：広く社会一般でのEUについての理解と知識を広めるために、講演会をはじめとした多様な活動の実施もしくは後援を行います。
- * **他機関との提携・協力**：日本国内のEUIJ (2011年4月現在5カ所)や、世界のEUセンターと協力した活動を展開します。
- * **情報発信**：EU研究、EUに関する情報、及びEUIJ九州の活動を電子ジャーナル、ニュースレター等により発信します。



4月26日には福岡市内のホテルで開所式とレセプションを行いました。



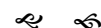
Hans Dietmar SCHWEISGUT (ハンス・ディートマル・シュバイスグート) 駐日欧州連合大使から「EU代表部は、EUIJ九州が日-EU関係をより強くするために様々な役割を果たすことを期待している」との言葉をいただき、続いて、磯田文雄文部科学省高等教育局長、海老井悦子福岡県副知事、高島宗一郎福岡市長、加藤久日本学術振興会国際事業部長、植田隆子元外務省欧州連合日本政府代表部次席大使から祝辞をいただきました。



当日は、九州EU研究会、福岡EU協会、佐賀県EU協会、福岡県、福岡市、在福岡EU加盟国民間国際交流団体、地元財界、コンソーシアム三大学他から約150人が出席し、今後EUIJ九州がEUと繋ぐ学術・教育・情報ハブとして大きな役割を果たしていくことが期待される日でした。



(写真提供：九州大学広報室)



<参考>

EU 研究や関連情報発信の拠点となり、政治・経済や科学技術、教育分野での日欧協力・交流の促進をする機関として EU インスティテュート・イン・ジャパン (EUIJ) が存在し、今回開所したEUIJ九州の他に以下の4拠点が設けられて来ました。

EUIJ関西 (神戸大学・大阪大学・関西学院大学)

<http://euij-kansai.jp/index.html>

EU スタディーズ・インスティテュート (一橋大学・慶応義塾大学・津田塾大学)

<http://www.eusi.jp/>

EUIJ早稲田 (早稲田大学)

<http://www.euij-waseda.jp/>

EUIJ東京コンソーシアム (一橋大学、国際基督教大学、東京外国語大学、津田塾大学)

http://www.euij-tc.org/index_j.html

今後の関連する催し

3.5 J-BILAT 第2回成功事例ワークショップ（エネルギーと物質科学及び生産技術）

キーワード：欧州との連携、低炭素化、新エネルギー・新素材、省エネルギー、生産技術

エネルギーとナノテクノロジー、物質科学及び生産技術分野での日欧間の研究協力をテーマに、以下の要領でJ-BILATプロジェクト第2回成功事例ワークショップを開催致します。詳細な仕組みと事例報告に加え、参加者を交えた議論により連携強化の可能性を探るほか、関連分野で使えるマリーキュリープログラムや欧州研究評議会（ERC）による先端研究助成の紹介も行います。関連分野の皆様のご参加をお待ちしております。

共催：九州大学、EUIJ 九州

対象：公的研究機関及び企業の研究者、研究担当マネージャー、助成団体関係者等50-60名

日時：2011年5月25日（水） 14:00 ～ 18:00 (受付開始13:30)

会場：アクロス福岡 会議室 606（福岡市）

交通案内等の詳細は、以下のウェブサイトをご覧ください。

<http://www.acros.or.jp/access/>

使用言語：日本語または英語、同時通訳は参加者構成により手配

参加費及び参加登録：

参加は無料ですが、事前登録をお願いしています。オンライン登録（<http://www.j-bilat.eu/registration-seminar>）、もしくは氏名（ふりがな及びアルファベット）、所属（和名・英名）、役職（和名・英名）、電話番号、メールアドレス、レセプション参加の有無をご明記の上、担当者（プロジェクトマネージャー 市岡利康、[Email: toshiyasu.ichioka@eu-japan.gr.jp](mailto:toshiyasu.ichioka@eu-japan.gr.jp)）までお申込み下さい。なお、こちらからの返信メールをもって登録完了と致します。

最新版のプログラムは次のウェブサイトに随時掲載します。

http://www.j-bilat.eu/seminar/BPSW_2

4月21日には、共催の九州大学、EUIJ九州と共同で、以下の報道発表を行いました。

<http://www.kyushu-u.ac.jp/pressrelease/2011/2011-04-21-03.pdf>

また、本ワークショップは日・EUフレンドシップウィークの一環としても位置づけられており、駐日欧州連合代表部の以下のページから見られるイベントリストに掲載されております。

http://www.deljpn.ec.europa.eu/modules/programme/friendship/?ml_lang=jp

3.6 J-BILAT 第1回成功事例ワークショップ（情報通信）

延期をしております第一回目のワークショップは、6月末の開催を目指して現在調整中です。情報通信（ICT）分野での日欧間の研究協力をテーマに、詳細な仕組みと事例報告に加えて参加者を交えた議論により連携強化の可能性を探る予定です。確定し次第、ウェブ他にて、お知らせを致します。

3.7 その他、関連する今後の催しのリスト

主にヨーロッパで今後開催される FP7 関連イベントを出来る限りまとめています。

タイトル	日付	場所	内容、ウェブサイト等
Knowledge transfer as a key tool of innovation in sustainable bio-economy	3-4 May 2011	Budapest	http://www.tetalap.hu/ktconference/ FP7 プロジェクト Knowledge2Innovation によるバイオ経済分野での知識移転に関する会議
The European Future Technologies Conference and Exhibition	4-6 May 2011	Budapest	http://www.fet11.eu/ ICT分野のフロンティア研究を支援するFET分野の会議
Scientix European Conference	6-8 May 2011	Brussels	http://www.scientix.eu/web/guest/conference 欧州の科学教育プロジェクトに関する催し
eHealth week	10-12 May 2011	Budapest	http://www.worldofhealthit.org/
European Perspectives in Personalised Medicine	12-13 May 2011	Brussels	http://ec.europa.eu/research/health/events-06_en.html
Future Internet Week	16-19 May 2011	Budapest	http://www.fi-budapest.eu/
ICT Proposer's Day 2011	19-20 May 2011	Budapest	http://ec.europa.eu/information_society/events/ictproposersday/2011/index_en.htm
FP7 Health - Open Information Day & Brokerage event	6-10 June 2011	Brussels	http://ec.europa.eu/research/health/events-05_en.html 医療分野での FP7 プロジェクトと 2012 年助成
The 3rd Annual Internet of Things Europe 2011 Conference,	28-29 June 2011	Brussels	http://www.eu-ems.com/summary.asp?event_id=70&page_id=495
Challenge Social Innovation Innovating innovation by research – 100 years after Schumpeter	19-21 September 2011	Vienna	http://www.socialinnovation2011.eu/ 2012 年助成に関する、社会科学・人文分野のネットワーキングイベントも開催
The 3rd European Conference on Corporate R&D (CONCORD-2011)	6 October 2011	Sevilla	http://iri.jrc.ec.europa.eu/concord-2011/index.html

4. 日本の機関が関わっている欧州プロジェクト紹介 その13

MACAN プロジェクト

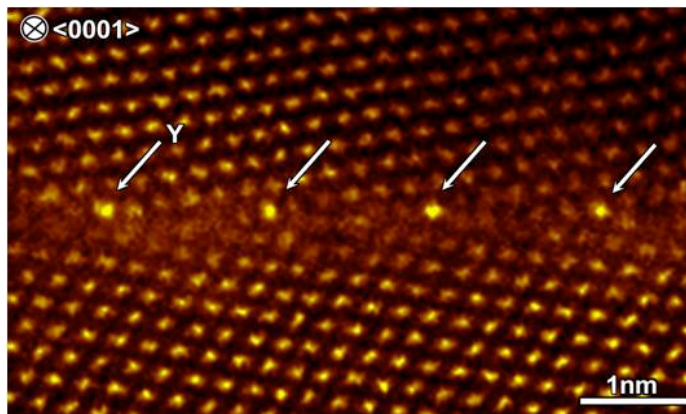


プロジェクト名	Merging atomistic and continuum analysis of nanometer length-scale metal-oxide systems for energy and catalysis applications
短縮名	MACAN
契約番号	233484
プロジェクト開始日	2009年6月1日
期間	48 ヶ月
助成金	1,099,813 ユーロ
ウェブサイト	http://macan.technion.ac.il/index.html

第 13 回は、ナノテクノロジー、物質科学及び生産技術（NMP）領域に含まれるプロジェクト、MACAN: Merging atomistic and continuum analysis of nanometer length-scale metal-oxide systems for energy and catalysis applications（エネルギーおよび触媒材料応用のための金属/酸化物の原子構造解析）を取り上げます。日本からの参加者は東京大学大学院工学系研究科の幾原雄一教授のグループです。以下、写真も含め、ご寄稿を頂いた文章を掲載いたします。

金属/酸化物界面はエネルギー材料や触媒材料などの機能材料の物性と密接に関係しています。したがって、その界面を原子レベルで解析するとともに、界面の電子状態を理論的に計算することが、新素材設計のための重要な課題となります。本プロジェクトでは、界面研究を行っている先端電子顕微鏡および理論計算の国際的な研究者を集結し、この課題に取り組むことを目的としています。

幾原教授のグループは、MACAN参加メンバーとこれまで10年以上も国際会議などを通じた議論を行ってこられました。今回、イスラエルのKaplan教授がプロジェクトの立案をとりまとめ、本プロジェクトが発足しました。



図アルミナ粒界に偏析した Y 原子の直接観察

参加機関名	国名
Technion - Israel Institute of Technology イスラエル工科大学	イスラエル
Centre Interdisciplinaire de Nanoscience de Marseille (CINAM) - CNRS マルセイユ ナノサイエンス学際センター	フランス
University of Munich ミュンヘン大学	ドイツ
Forschungszentrum Julich ユーリヒ総合研究機構	ドイツ
University of Leoben レオベン大学	オーストリア
Christian-Albrechts University クリスティアン・アルブレヒト大学	ドイツ
University of Tokyo 東京大学	日本
Sabanci University サバンジ大学	トルコ
Jozef Stefan Institute ヨーゼフ・ステファン研究所	スロベニア
University of Copenhagen コペンハーゲン大学	デンマーク
Fraunhofer-Gesellschaft zur Forderung der angewandten Forschung e.V. フラウンホーファー協会	ドイツ
University of Connecticut コネチカット大学	米国
Imperial College, London インペリアル・カレッジ・ロンドン	英国
Max Planck Gesellschaft zur Forderung der Wissenschaften e.V. フラウンホーファー研究機構	ドイツ
Indian Institute of Science インド理工科大学院	インド
Pontificia Universidade Catolica do Rio de Janeiro リオデジャネイロカトリック大学	ブラジル
MIT (Associate Partner) マサチューセッツ工科大学 (準パートナー)	米国

コーディネータはイスラエル工科大学 (Technion - Israel Institute of Technology) で、全参加機関は、左の表の通りです。

プロジェクトでは、年2-3回の定期的な委員会を開催してプロジェクトの進捗状況を互いに確認しておられ、またヨーロッパMRS (European Materials Research Society) など特定セッションを設け、メンバーあるいはメンバーの研究室に所属する大学院生の発表を推奨しておられます。一方、各研究機関への博士研究員および大学院生の派遣も推奨されており、東京大学からは1名の博士研究員を3か月派遣されました。また、MACANが主催の国際会議へはこれまでに大学院生を5名派遣されておられます。

東京大学グループは、主に収差補正走査透過電子顕微鏡法および電子エネルギー損失分光による界面の原子・電子構造解析を担っており、MACANに関連する成果として次ページのリストにある論文を2010年に発表されました。

各国の研究機関との利害関係や知財に関しては、特許が生じた場合に限り審議することに取り決められているようです。FP7プロジェクトへの参加の最大のメリットは最先端情報を共有できると国際交流が活性化されることだということでした。

このプロジェクトでは東大にも欧州委員会から直接の予算措置が取られていますが、予算執行・配分などは基本的には、コーディネータであるイスラエル工科大学で審議し、決定されているようです。

1. Z. Wang, M. Okude, M. Saito, S. Tsukimoto, A. Ohtomo, M. Tsukada, M. Kawasaki, and Y. Ikuhara, "Dimensionality-driven insulator-metal transition in A-site excess nonstoichiometric perovskites", **Nature Communications**, **1**, 106 (2010). (IF: N/A, C: N/A)
2. H. Ohta, Y. Sato, T. Kato, S-W. Kim, K. Nomura, Y. Ikuhara, and H. Hosono, "Field-induced water electrolysis switches an oxide semiconductor from an insulator to a metal", **Nature Communications**, **1**, 118 (2010). (IF: N/A, C: N/A)
3. E. Tochigi, N. Shibata, A. Nakamura, T. Mizoguchi, T. Yamamoto, and Y. Ikuhara, "Structures of dissociated <1-100> dislocations and {1-100} stacking faults of alumina (α -Al₂O₃)", *Acta Mater.*, **58**, 208-215 (2010). (IF: 3.760, C: 1)
4. K. Nakamura, T. Mizoguchi, N. Shibata, K. Matsunaga, T. Yamamoto, and Y. Ikuhara, "First-principles sliding simulation of Al-terminated Sigma 13 pyramidal twin grain boundary in α -Al₂O₃", *Phil. Mag. Lett.*, **90**, 159-172 (2010). (IF: 1.530, C: 0)
5. K. Matsui, H. Yoshida, and Y. Ikuhara, "Phase-transformation and grain-growth kinetics in yttria-stabilized tetragonal zirconia polycrystal doped with a small amount of alumina", *J. Eur. Ceram. Soc.*, **30**, 1679-1690 (2010). (IF: 2.090, C: 0)
6. S. Amma, Y. Tokumoto, K. Edagawa, N. Shibata, T. Mizoguchi, T. Yamamoto, and Y. Ikuhara, "Electrical current flow at conductive nanowires formed in GaN thin films by a dislocation template technique", *Appl. Phys. Lett.*, **96**, 193109 (2010). (IF: 3.726, C: 0)
7. K. Uchida, A. Yoshikawa, K. Koumoto, T. Kato, Y. Ikuhara, and H. Ohta, "A single crystalline strontium titanate thin film transistor", *J. Appl. Phys.*, **107**, 096103 (2010). (IF: 2.072, C: 0)
8. SD Findlay, N. Shibata, H. Sawada, E. Okunishi, Y. Kondo, and Y. Ikuhara, "Dynamics of annular bright field imaging in scanning transmission", *Ultramicroscopy*, **110**, 903-923 (2010). (IF: 1.996, C: 1)
9. S. Azuma, N. Shibata, SD Findlay, T. Mizoguchi, T. Yamamoto, and Y. Ikuhara, "HAADF-STEM observations of a Sigma 13 grain boundary in α -Al₂O₃ from two orthogonal directions", *Phil. Mag. Lett.*, **90**, 539-546 (2010). (IF: 1.530, C: 0)
10. SD Findlay, N. Shibata, S. Azuma, and Y. Ikuhara, "Prospects for 3D imaging of dopant atoms in ceramic interfaces", *J. Electron Microscopy*, **59**, S29-S38 (2010). (IF: 1.047, C: 0)
11. Y. Nohara, E. Tochigi, N. Shibata, T. Yamamoto, and Y. Ikuhara, "Dislocation structures and strain fields in [111] low-angle tilt grain boundaries in zirconia bicrystals", *J. Electron Microscopy*, **59**, S117-S121 (2010). (IF: 1.047, C: 0)
12. H. Ogino, S. Sato, K. Kishio, J. Shimoyama, T. Tohei, and Y. Ikuhara, "Homologous series of iron pnictide oxide superconductors (Fe₂As₂)_x[Ca_{n+1}(Sc,Ti)_mO_y] (n=3,4,5) with extremely thick blocking layers", *Appl. Phys. Lett.*, **97**, 072506 (2010). (IF: 3.726, C: 2)
13. T. Tohei, T. Mizoguchi, H. Hiramatsu, H. Hosono, and Y. Ikuhara, "Interface atomic structure of LaCuOSe:Mg epitaxial thin film and MgO substrate", *Mater. Sci. Eng. B*, **173**, 229-233 (2010). (IF: 1.756, C: 1)
14. CM Montesa, N. Shibata, T. Tohei, K. Akiyama, Y. Kuromitsu, and Y. Ikuhara, "Application of coincidence of reciprocal lattice point model to metal/sapphire hetero interfaces", *Mater. Sci. Eng. B*, **173**, 234-238 (2010). (IF: 1.756, C: 0)
15. H. Hiramatsu, T. Kamiya, T. Tohei, E. Ikenaga, T. Mizoguchi, Y. Ikuhara, K. Kobayashi, and H. Hosono, "Origins of hole doping and relevant optoelectronic properties of wide gap p-type semiconductor, LaCuOSe", **J. Am. Chem. Soc.**, **132**, 15060-15067 (2010). (IF: 8.580, C: 0)
16. H. Hojo, T. Mizoguchi, H. Ohta, SD Findlay, N. Shibata, T. Yamamoto, and Y. Ikuhara, "Atomic structure of a CeO₂ grain boundary: the role of oxygen vacancies", **Nano Lett.**, **10**, 4668-4672 (2010). (IF: 9.991, C: 0)
17. N. Shibata, Y. Kohno, SD Findlay, H. Sawada, Y. Kondo, and Y. Ikuhara, "New area detector for atomic-resolution scanning transmission electron microscopy", *J. Electron Microscopy*, **59**, 473-479 (2010). (IF: 1.047, C: 0)
18. N. Takahashi, T. Mizoguchi, T. Nakagawa, T. Tohei, I. Sakaguchi, A. Kuwabara, N. Shibata, T. Yamamoto, N. Ohashi, and Y. Ikuhara, "Cr diffusion in α -Al₂O₃: Secondary ion mass spectroscopy and first-principles study", *Phys. Rev. B*, **82**, 174302 (2010). (IF: 3.475, C: 0)
19. SD Findlay, T. Saito, N. Shibata, Y. Sato, J. Matsuda, K. Asano, E. Akiba, T. Hirayama, and Y. Ikuhara, "Direct imaging of hydrogen within a crystalline environment", *Appl. Phys. Express*, **3**, 116603 (2010). (IF: 2.223, C: 0)
20. Y. Nagao, A. Yoshikawa, K. Koumoto, T. Kato, Y. Ikuhara, and H. Ohta, "Experimental characterization of the electronic structure of anatase TiO₂: Thermopower modulation", *Appl. Phys. Lett.*, **97**, 172112 (2010). (IF: 3.726, C: 0)

5. 公募情報

ニュースレター発行時点での最新の情報をお送りしております。
FP7 に関する日欧共同公募は現在出されておられません。

5.1 昨年の公募の審査状況

昨年出された公募は審査が進んでおり、例えば宇宙分野では以下のような短いレポートが出されています。おおよそ6～7割の応募書類が審査の基準を上回り、点数順に並べたリストの順位とプロジェクトのタイプを考慮して欧州委員会との契約交渉が進むこととなります。

http://ec.europa.eu/research/participants/portal/appmanager/participants/portal?_nfpb=true&_pageLabel=cooperation

5.2 日本からの応募が可能なFP7公募

この他に、以下のFP7の公募が利用できます（毎号随時アップデートしております）。緑色のものは、特に日本からの参加をターゲットにした部分のある公募や日本からの参加者・機関に助成金の出る可能性のあるもの、ピンクのものは前号から新たに付け加わったものです。

プログラム	公募番号	応募締切	含まれるテーマ	Comments
Cooperation	FP7-ICT-2011-C	12 March 2013 at 17:00:00 (Brussels local time) - For Batch_15 STREP and CSA 25 September 2012 at 17:00:00 (Brussels local time) - For Batch_14 STREP and CSA 10 April 2012 at 17:00:00 (Brussels local time) - For Batch_13 STREP and CSA 25 October 2011 at 17:00:00 (Brussels local time) - For Batch_12 STREP and CSA 17 May 2011 at 17:00:00 (Brussels local time) - For Batch_11 STREP and CSA	Information and Communication Technologies	Proposals for the FET Open scheme can be submitted at any time
Ideas	ERC-2011-PoC	15 June 2011 at 17:00:00 (Brussels local time) 08 November 2011 at 17:00:00 (Brussels local time)	ERC, proof of concept	既に ERC 助成を受けている研究者が研究により得られた革新的技術他の実証をするための助成

プログラム	公募番号	応募締切	含まれるテーマ	Comments
People	FP7- PEOPLE-2011 -CIG	6 September 2011 at 17:00:00 (Brussels local time)	Marie Curie career integration grants	Career Integration Grants 研究者がホスト機関 と共に応募
People	FP7- PEOPLE-2011 -IIF	11 August 2011 at 17:00:00 (Brussels local time)	Marie-Curie International Incoming Fellowships	日本の機関に所属する研究 者が欧州に行く場合はこち らを検討
People	FP7- PEOPLE-2011 -IEF	11 August 2011 at 17:00:00 (Brussels local time)	Marie Curie Intra-European Fellowships	欧州の機関に所属する日本 人研究者はこれを検討の事
People	FP7- PEOPLE-2011 -IOF	11 August 2011 at 17:00:00 (Brussels local time)	Marie Curie International Outgoing Fellowships	欧州の研究者を日本に受け 入れる場合（但し、参加成 は欧州研究者の派遣元機関 にされる）。EU加盟国もし しくはFP7関連国で5年以上研 究をしておられる日本人研 究者も対象

公募情報は、以下の participants portal に順次公開されます。

<http://ec.europa.eu/research/participants/portal/page/home>

公募の内容や応募条件、具体的な応募方法等、何かご質問やご要望がありましたら、J-BILATにお知らせくだされば、できる範囲でお答え致します。現在プロジェクトのウェブサイトのリニューアルをしており、近日中に公開の新しいサイトでは、例えば FP7 の契約関係の書類の日本語訳をいくつか、参考として提供する予定であります。

また、ご応募の後に採択された場合など、ぜひご参加に至る過程や実際のプロジェクトの様子など、体験をお寄せいただければと思います。次年度以降のセミナーやワークショップで、共有していきたいと思います。

6. プロジェクトデータベースへの登録のお願い

プロジェクトに関する情報をお送りするために、データベースへの登録をお願いしております。プロジェクトウェブサイトからの登録に加え、メールやファックスにて、以下の情報をお送りいただいても結構です。

<http://www.j-bilat.eu/registration/>

Registration for the project database can be done through the following website, or by sending the information listed below to the project manager.

<http://www.j-bilat.eu/registration/>

- Title (Mr. Ms. Dr. Prof.)
- Surname 姓
- Name 名前
- Position 役職
- Affiliation 所属
- Mailing address 所属先住所 (optional)
- E-mail address メールアドレス
- Telephone No. 電話 (optional)
- Fax No. ファックス (optional)
- Area of interest (multiple choice from the following list:

Health; food, agriculture and biotechnology; information and communication technologies (ICT); nanosciences, nanotechnologies, materials and new production technologies; energy; environment (including climate change); transport (including aeronautics); socio-economic sciences and the humanities; security; space; other “ ”

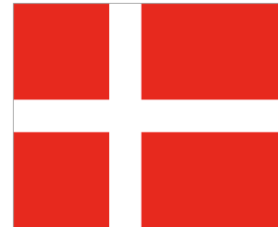
興味のある分野（複数可）

保健・食料・農業・漁業・バイオテクノロジー・情報通信技術・ナノ科学及びナノテクノロジー・材料及び新生産技術・エネルギー（原子力を除く）・環境（気候変動を含む）・運輸（航空を含む）・社会経済科学及び人文科学・宇宙・安全・原子力・その他 「 」

7. 欧州連合加盟国紹介 その8 デンマーク

欧州連合加盟国の特に研究開発に関し、順次簡単な紹介をしています。

漢字表記：丁抹（略称 丁）
面積：43,094 平方キロ
主要都市：コペンハーゲン（首都）、オーフス、オーデンセ、オールボー
人口：551 万人（2009）
公用語：デンマーク語
宗教：プロテスタント 95% 他
名目GDP：311.9 bn USD (2010) 産業構成GDP: 農業： 1.1% 工業： 22.2% サービス業： 76.7%
科学・技術： 国全体の研究開発支出（Gross Domestic Expenditure on R&D；GERD）：GDPの2.72% (2008) 研究開発費の出所 政府 25.3% 民間 61.1%



デンマークの科学・技術は、科学・技術・イノベーション省（Ministeriet for Videnskab, Teknologi og Udvikling）下の科学・技術・イノベーション庁（Forsknings- og Innovationsstyrelsen）の管轄であり、傘下の各種評議会を通じて研究・開発・イノベーションへの助成を行なっている。

<http://en.fi.dk/>

以下のサイトではデンマークの全ての大学と多くの研究機関の論文等が検索できる。

<http://www.forskningsdatabasen.dk/>

デンマークは風力発電に早くから取り組んでいる国の一つであり、また、特にコペンハーゲン地域は進んだ医療情報システムでも知られる。

(出典: CIA Factbook, Wikipedia, OECD他)

日本におけるFP7情報サービス事業(J-BILAT)

事業名	BILAT in Japan	省略形	J-BILAT
開始日	2010年1月1日	契約書番号	244310
期間	36 ヶ月	予算	612,090 EUR (内 FP7 助成金が500,000 EUR)

本ニュースレターに含まれるFP7関連その他の情報は得られた時点で最新のものを正確にお伝えするよう努めておりますが、意見等は関係機関の公式見解を表わすものではなく、また本文に EU の公式文書その他の日本語訳が含まれる場合にも、原典と同等の内容の正当性を保証するものではありません。本ニュースレターに関するご意見・ご要望・配信の停止等のお問い合わせは、右記の担当 市岡までお寄せ下さい。

Fabrizio Mura
プロジェクト代表
E-mail: fabrizio.mura [at] eu-japan.gr.jp
市岡 利康
プロジェクトマネジャー(J-BILAT担当)
E-mail: toshiyasu.ichioka [at] eu-japan.gr.jp
日欧産業協力センター
〒102-0082 東京都千代田区一番町13-3 ラウンドクロス一番町4階
Tel.: +81 - (0)3-3221-6161
Fax: +81 - (0)3-3221-6226



J-BILAT is on twitter

© 日欧産業協力センター
EU-Japan Centre for Industrial Cooperation
編集: 市岡利康